

山里針平

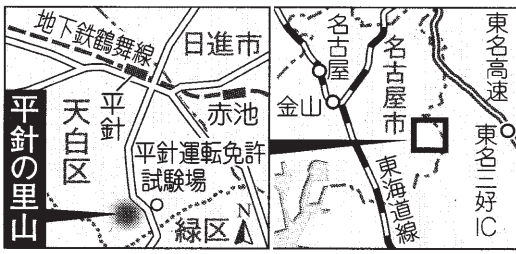
河村市長が開発許可

会社側、1億円損賠請求へ

開発が保全かで揺れ 会長と会い、開発の許
続けた名古屋市天白区 可証を渡した。

平針地区の里山五杉に 加藤会長は里山を開
ついで、河村たかし市 発し、住宅の建設に着
長は二十二日午後、開 手する考えを明らかに
発会社シールズ(同) した。年明けには、市
市名東区)の加藤常文 が許可を保留した八カ

月間の金利や固定資産 税など一億円の損害賠
償を求めるとし、市側 が応じなければ提訴す
る意向を示した。
河村市長は「何とか 残したいと国や財界に



も働きかけたが、万策 尽きた。(同社に対
し)申し訳なかったと
いう気持ちはある。
(損害賠償に対し)法
律的な面は、今後検討
します」と述べた。

保存を求めてきた
「平針の里山保全連絡
協議会」(代表・宗宮
弘明名古屋大教授)は
「開発は断固反対。今
後も粘り強く保全に向
けての活動を続ける」
との声明を出した。

来年十月に同市で開
かれる生物多様性条約
第十回締約国会議(C
OP10)で、日本のテー
マは「里山」。河村市長
と開発会社は、市への
売却を前提に交渉を進
めたが、市の鑑定額
(十九億五千万円)と
同社の希望額(二十五

億円)の差は大きく、
市長は国や財界などに
も働きかけを続けた
が、埋まらなかった。